研究会報

発行　印旛研理研究部
事務局　成田市寺台948の1　成田小学校内

みんなでつくる研究

研究の方向と内容

一、研究の方向

子どもの事から発想を豊かにする理科学習をどのようにしたらよいか。

二、研究の方向と内容

(一)問題解決学習における発想について

㊀発想が生まれる場の構成

㊁発想が生まれる場と明確さに対するものの反応

㊂発想を生み出し、生かす指導の手だての工夫

・子どもを訪ねる教材研究

・直接経験の重視

・一人ひとりの個性を尊重し生かす授業展開

(二)授業展開と考察

㊀発想が生まれ、意欲を生かした学習過程

㊁授業記録

㊂考察

〈中学校〉

一、主題

生徒の疑問を大切にする生物指導

二、研究の方向と内容

(一)生物の環境との適応

(二)一個体、単細胞生物の精妙な仕組み

(三)生物同志のバランス

(四)授業展開と考察

子どもたちが興味・関心をもち主体的に取り組む授業展開

一高と今後の課題

当分の間、不言実行

〈小学校〉

「地域の自然を理科学習に生かすにはどうしたらよいか。」

今年度は、昨年度までの研究を一歩押し進めた大回る。地域の自然の教材化を考えるあり。研究内容は、各学年の主題単元について問題点の洗い出しを行い、教育課程の作成、野外授業の協力を見に行き、また、野外授業を助けるためのプリントの作成をする。視聴覚教材の作成、いろいろな授業の効果化を図る。

三年から五年へのこの計画で、初年度はモデルとワークが研究の中心となる。

〈中学校〉

「「人間と自然」の教材」

今年で三年目になる「人間と自然」の教材は、まだまだ高行錯誤の段階です。しかし、今年は、昨年の生物レポートをもとに人間と自然とを考えるいい見本、考えを高め自分の生活のあり方を考えるようにしたいです。最終単元をもとにのみ実験直前に扱うことは、実際上難点が多い。

そこで、「生物がくらしのつながり」にこの単元を位置付け「自然と人間」の区分に部をもうけの中にもいれようとしてみようこのようなものです。

また、今回は昨年度とった人間の目から、「人間から考えられる」授業を教にやすいような形にして示唆する予定です。

現代の問題を考えるための生活環境の調査

〈小学校〉

「社会科を通して子どもたちの思考を高める授業のあり方」

今年度は、昨年度の研究を踏まえ、「社会科を通して子どもたちの思考を高める授業のあり方」を研究主題に取り組んでいる。研究内容は、「社会科の授業を通して子どもたちの思考を高める授業の工夫」の研究と、「地域の人々の生活と産業」の教材化の研究である。

研究の進め方は、研究主題に関する三年目になる。

今年度は、「社会科の授業を通して子どもたちの思考を高める授業の工夫」の研究と、「地域の人々の生活と産業」の教材化の研究である。

研究の進め方は、研究主題に関する三年目になる。

今年度は、「社会科の授業を通して子どもたちの思考を高める授業の工夫」の研究と、「地域の人々の生活と産業」の教材化の研究である。

研究の進め方は、研究主題に関する三年目になる。

今年度は、「社会科の授業を通して子どもたちの思考を高める授業の工夫」の研究と、「地域の人々の生活と産業」の教材化の研究である。

研究の進め方は、研究主題に関する三年目になる。

社会科を通して子どもたちの思考を高める授業の工夫

〈小学校〉

「地域の人々の生活と産業」

今年度は、昨年度の研究を踏まえ、「地域の人々の生活と産業」の教材化の研究を進めるとともに、授業展開の工夫、授業記録、考察、まとめとしたい。

〈中学校〉

○昨年度、研究者の今年の研究調査を中心に行ったが、今年度は「地域の人々・子ども」の視点を通して、実態調査、指導計画の作成、授業展開、授業記録、考察、まとめとしたい。

〈小学校〉

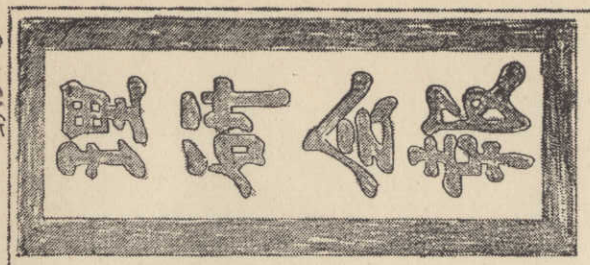
○研究のテーマ「ひとりひとりの創意・工夫を生かす教材・教具の開発と開発」

研究者は、「一人一人の創意・工夫を生かす教材・教具の開発」の視点に立って、教材・教具の開発、それに伴う教材研究、指導計画の作成、授業展開などについて、研究を進めるとともに、授業展開に関する研究を行う。

〈中学校〉

○研究のテーマ「ひとりひとりの創意・工夫を生かす教材・教具の開発と開発」

研究者は「問題解決・学習」の視点に立って、今年度は、「問題解決・学習」の視点に立って、教材研究、指導計画の作成、授業展開、考察についてまとめる。

五年生の理科学習を通して「ひとりひとりが気づき考える力」を育てるための観察・実験の工夫

昭和60年度研究理論研究会